

教科実践レポート

第1学年 美術

「対話する授業への取り組み」

授業者 岸本和幸

《研究実践のポイント》

対話や議論することを通して、自他の考えを比較検討し、考えを深めたり広げたりすることで授業のねらいに迫る

1. 音楽科との合科授業

《内容・ねらい》

音楽の授業で「ボレロ」を鑑賞し、そのワークシートをもとに表現活動をする。

全校で取り組み、全ての生徒作品を鑑賞する。友達と話し合いながらワークシートに記入する際、意見の交流や目の前の作品を通して作者との対話が展開されることを仕組んだ。この活動を通して、より深く作品を鑑賞する力を育成することをねらいとした。

2. 成果と課題

○同じ曲のイメージからの作品なので、自分の作品との比較が容易にできた。

○発想・構想に関する鑑賞が深まった。

▲身近な仲間の作品なので、感想を書くことは容易にできるが、その感想に対して反対意見や別の見方を提起することが難しく、深まらなかった。

生徒作品に対する鑑賞には限界を感じた。

▲「具体的に書く」ことの指導にとどまった。

3. 対話をどこに組み込むのか

生徒の様子を観察していると、生徒たちが「対話したい」という動きをするのはアイデアを思いつくとき、そしてそのアイデアを練るときようだ。そこに「対話・議論」を設定することを考えた。1年生の「絵文字」の単元で実施してみることにした。

注意するのは個人思考の時間をある程度取ってからでないかと安易に人のアイデアに飛びついてしまう生徒が出てくることだ。

しかし、それ以前に「何から考えたらいいいのかわからない」という生徒もいて、そういう生徒への配慮も欠かせない。

対話をするための材料が必要になる。

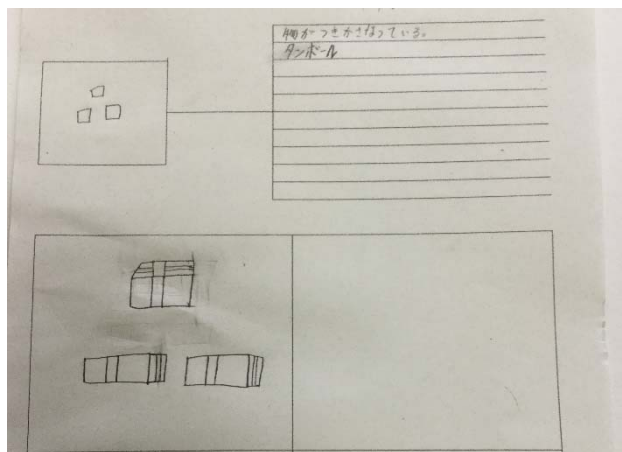
4. 対話するための材料

今回は思考ツールとして「熊手チャート」を利用することにした。

絵文字にしたい文字を考えたら、その文字に関するブレインストーミングをさせる。まずは個人で考えてから、グループの力を借りることにすれば、多様なアイデアを思いつくことが苦手な生徒にとって考えを広げることになると考えた。

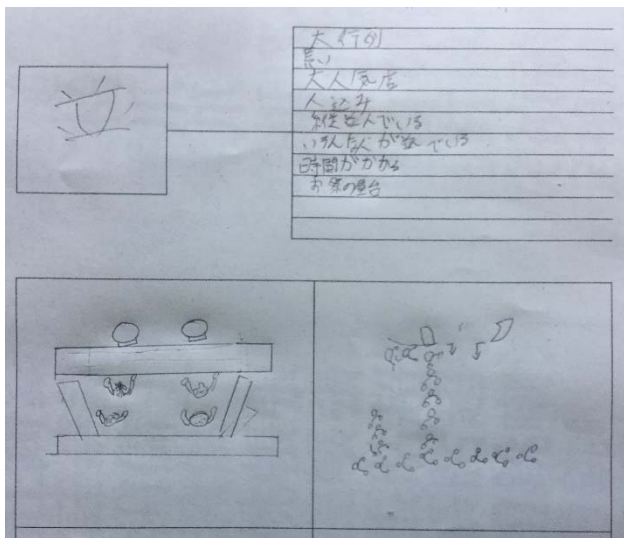
5. 絵文字のブレインストーミング

パワーポイントで絵文字の作り方、考え方を説明し、スケッチブックで絵文字にできそうな字を5～10文字考えさせる。その後、どの文字にするのか決定し、熊手チャートとアイデアスケッチのスペースのあるワークシートを配布して、個人思考をさせた。文字を検討する際には、絵文字になった姿をある程度考えるのが普通だ。ほとんどの生徒が熊手チャートと共にアイデアスケッチを行っていた。



発想や構想の力を伸ばすためには、さらにアイデアをいくつか考え、どれがよいのか比較検討する必要がある。思考を深めることが苦手な生徒はそのアイデアとは別のアイデアを考えることが難しい。あきらめてしまうか、前回のアイデアを少しアレンジしただけ、などのパターンが

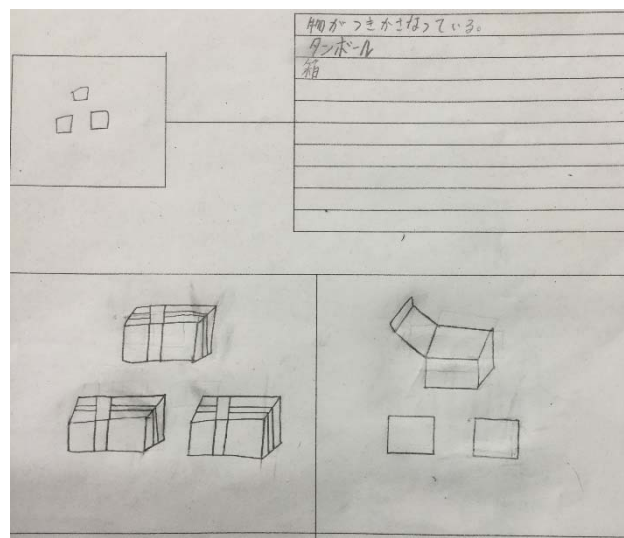
多い。写真の「品」という字で考えている生徒 A もその傾向にあり、これ以上の変化が見られなかった。下の写真の「並」で考えている生徒 B も「人気店に人が並ぶ」というイメージ以外が思いつかないようだった。



ことで困っているからアドバイスをちょうだい」というように指示して実施した。

6. 成果と課題

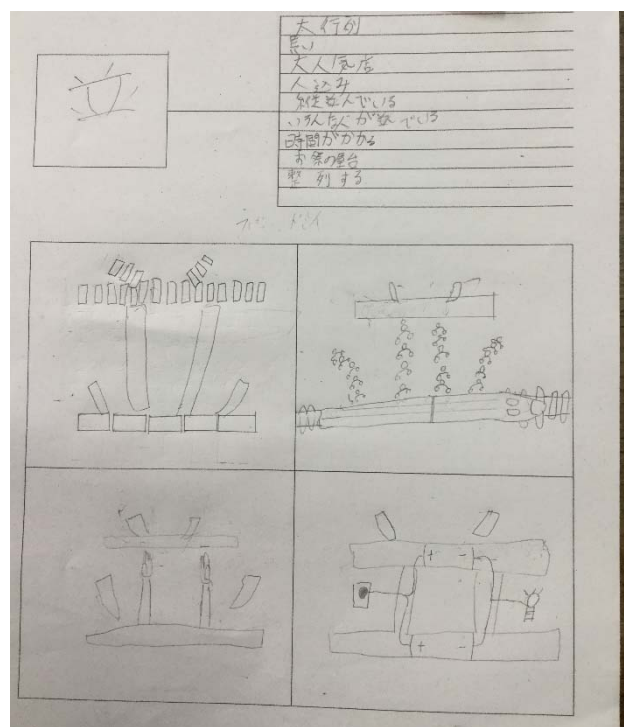
生徒 A, B のアドバイスタイム後のワークシートは次のようになった。



6. アドバイスタイム



以前、アドバイスタイムとしてみんなの意見を聞く時間を班単位のグループで設定したことがあるが、それほど活発な動きがなかった。そこで今回は4列ある生徒の座席で左の2列は作業を続け、右の2列は自由に左側の作品を見ながらアドバイスをする、というポスターセッションの変形を試みた。さらに、アドバイスを受ける側は「こんな



生徒 A は「品物を開ける」というアドバイスを参考にし、B はドミノを利用するアイディアのヒントをもらった。

活発な意見交換ができ、振り返りでもほとんどの生徒が有益なアドバイスの交換ができたと答えている。